

製品名: ビンキュリン (リン酸化 Tyr821) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab05627

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	VCL
別名	VCL; Vinculin; Metavinculin
遺伝子 ID	7414.0
SwissProt ID	P18206
免疫原	抗血清は、ヒトビンキュリンの Tyr821 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 786-835

背景

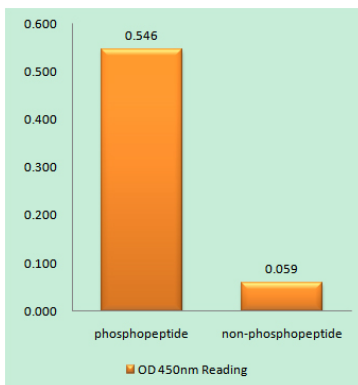
ビンキュリンは細胞間および細胞-マトリックス接合部に関連する細胞骨格タンパク質であり、F-アクチンを膜に固定する複数の相互

作用タンパク質の1つとして機能すると考えられています。VCLの欠陥は、拡張型心筋症1Wの原因です。拡張型心筋症は、心室拡張と収縮機能障害を特徴とする疾患で、うっ血性心不全および不整脈を引き起こします。この遺伝子には複数の選択的スプライシング転写バリエーションが見つっていますが、一部のバリエーションの生物学的妥当性は未だ解明されていません。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：VCLの欠陥は拡張型心筋症1W (CMD1W)の原因です [MIM:611407]。拡張型心筋症は、心室拡張と収縮機能障害を特徴とする疾患であり、うっ血性心不全および不整脈を引き起こします。患者は早期死亡のリスクがあります。機能：細胞接着に関与します。アクチンを主成分とするマイクロフィラメントの細胞膜への接着に関与している可能性があります。また、細胞の形態や運動にも重要な役割を果たす可能性があります。オンライン情報：ビンキュリンの進入,PTM：アセチル化。主にミリスチン酸によって、また少量のパルミチン酸によってもアセチル化されます。PTM：リン酸化。セリン、スレオニン、チロシンがリン酸化されます。活性化血小板における Tyr-1133 のリン酸化は、頭部-尾部相互作用および細胞伸展に影響を与えるが、アクチン結合や接着斑への局在には影響を与えない。類似性：ビンキュリン/ α -カテニンファミリーに属する。細胞内局在：接着斑の細胞質側。サブユニット：自己会合特性を示す。NRAP および SORBS1 と相互作用する (類似性による)。TLN1 と相互作用する。SYNM と相互作用する。組織特異性：メタビンキュリンは筋特異的である。

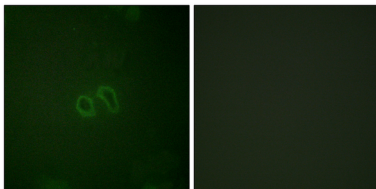
研究分野

接着斑;接着結合;白血球の内皮透過移動;アクチンと細胞骨格の調節;

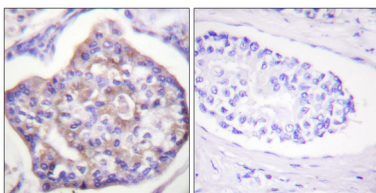
画像データ



ビンキュリン (リン酸化 Tyr821) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



ビンキュリン (リン酸化 Tyr821) 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



ビンキュリン (リン酸化チロシン 821) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。